

平成29年度 出雲医療看護専門学校 自己点検・自己評価

【目的】

自己点検・自己評価は教育評価の一環として位置づけられる。本校では教育活動やその他の運営状況について、点検評価を行うことで強みと課題を明らかにし、教育の質向上や健全な学校運営を目指して組織、継続的に取り組む。

【方法】

1. 「特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構(以下「機構」という。)がガイドラインに準拠して制定した「専門学校等評価基準書Ver4.0」を基準に自己点検・自己評価を行なう。

2. 全職員が評価表に基づき評価を行い、その結果を「自己点検・自己評価委員会」にて検討し、職員へフィードバックする。

3. 公表

4. 評価結果に基づき、次年度への重点課題を決め、改善に取り組む。

※評価基準 1 できていない 2改善が必要 3ほぼできている 4できている

大項目	大項目の評価	中項目		中項目の評価	小項目(指標)		小項目の評価
I 教育理念・目的・ 育成人材像	3	【1-1】	理念・目的・育成人材像	3	1	理念・目的・育成人材像は、定められているか	3.0
					2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3.0
					3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3.0
					4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	2.0
現状				今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・教育目標については、明確になっており教職員には充分周知されているが、保護者・学生や関連業界への認知は低い。 ・各学科における育成人材像は設定されているが、明記されていない学科もある。 				<ul style="list-style-type: none"> ・学外への周知を徹底するとともに、各学科の育成人材像を明確化する。また3つのポリシーの策定が急務であり、策定に向けて取り組んでいる。 			

大項目	大項目の評価	中項目		中項目の評価	小項目(指標)		小項目の評価			
II 学校運営	2	【2-2】	運営方針	2	5	理念等に沿った運営方針を定めているか	2.0			
					6	理念等を達成するための事業計画を定めているか	2.0			
					【2-4】	運営組織	2	7	設置法人は組織運営を適切に行っているか	1.0
								8	学校運営のための組織を整備しているか	3.0
					【2-5】	人事・給与制度	1	9	人事・給与に関する制度を整備しているか	1.0
					【2-6】	意思決定システム	3	10	意思決定システムを整備しているか	3.0
					【2-7】	情報システム	3	11	情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3.0
現状				今後の課題と対策						
<ul style="list-style-type: none"> ・運営方針の周知徹底は、徐々に改善されているが、方針決定におけるプロセスが不明瞭である。組織運営については、適切におこなわれているが教職員へは周知がなされていない。 ・規程等の整備は、委員会で見直し整備した。 				<ul style="list-style-type: none"> 業務改善や業務の効率化に向けた全学的な取組みが必要であり、教職員の意識改善が不可欠である。情報管理を徹底するため、情報管理システムの構築が必要であると同時に、情報の共有化を徹底する。 						

大項目	大項目の評価	中項目		中項目の評価	小項目(指標)		小項目の評価
III 教育活動	3	【3-8】	目標の設定	3	12	理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	3.3
					13	学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3.3
		【3-9】	教育方法・評価等	2	14	教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	3.1
					15	教育課程について外部の意見を反映しているか	2.1
					16	キャリア教育を実施しているか	1.9
					17	授業評価を実施しているか	2.0
					18	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	3.3
		【3-10】	成績評価・単位認定等	3	19	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3.6
					20	目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	3.7
		【3-11】	資格・免許の取得の指導体制	4	21	資格・免許取得の指導体制はあるか	3.7
					22	資格・要件を備えた教員を確保しているか	2.7
		【3-12】	教員・教員組織 ※教員=専任・兼任・非常勤 含む	3	23	教員の資質向上への取組を行っているか	2.7
24	教員の組織体制を整備しているか				3.1		
現状				今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> ・3つの理念である【実学教育】【人間教育】【国際教育】に沿って、教育課程を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしている。 ・業界との連携を取り、具体的な取り組みを行い、指導に生かしている。 ・授業に関しては教材を開発し、授業を計画・実施・評価している。 ・実習指導者会議を定期的に行い振り返るとともに、指導者との連携を図っている。 ・キャリア教育に関しては現在は部分的に企画し実施しているが、管理運営委員会で検討している。 ・授業評価は学内の教員は各自行っているが、外部講師については行っていない、教育効果の検証システムはない。 				<ul style="list-style-type: none"> ・現在3つのポリシーについて検討し、教育課程の方針と実施方針の整合性があるか確認を進めている。 ・外部講師の意見は、各担当教員が把握しているが、学生の意見が把握できるシステムはないので、今後協議していく。また、成績評価と単位認定については見直しを引き続き行い改善していく。 ・教員の資質向上については、今後も継続的にを行い、FD研修以外の研修や教員としての経年教育についても確実な取り組みを明確にして実施していく。 ・教員と事務との連携についても、業務分掌を明確にし、連携を強化していく。 			

大項目	大項目の評価	中項目	中項目の評価	小項目 (指標)	小項目の評価		
IV学修成果	3	【4-13】	就職率	4	25	就職率の向上が図られているか	3.6
		【4-14】	資格・免許の取得率	4	26	資格・免許取得率の向上が図られているか	3.7
		【4-15】	卒業生の社会的評価	2	27	卒業生の社会的評価を把握しているか	2.1
現状				今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> キャリアセンターと連携し、就職率目標は100%と目標は達成できている。 免許取得の目標は明確化できている、目的意識を維持できるような教育に努めている。 学生が希望に沿った求人情報の提供し、就職活動に向けた指導を適切に実施している。 卒業後も就職した病院施設にキャリアセンターと通じて、実態把握に努めており、社会的評価を調査している。 過去の離職率も現在調査を行っている。 				<ul style="list-style-type: none"> 学生就職希望先と就職先のミスマッチを防ぐため、キャリアセンターと教務で情報の共有し指導を時間軸に当てはめながらスムーズに行う。 現在2期生までが卒業生としており、社会的評価は未だ未知数なため継続的な調査が必要である。 離職率も同様に継続的に調査していく必要がある。 			

大項目	大項目の評価	中項目	中項目の評価	小項目 (指標)	小項目の評価		
V学生支援	3	【5-16】	就職等進路	3	28	就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	3.1
		【5-17】	中途退学への対応	3	29	退学率の低減が図られているか	3.1
		【5-18】	学生相談	3	30	学生相談に関する体制を整備しているか	3.7
					31	留学生に対する相談体制を整備しているか	1.5
		【5-19】	学生生活	2	32	学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	2.9
					33	学生の健康管理を行う体制を整備しているか	3.0
					34	学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	1.1
					35	課外活動に対する支援体制を整備しているか	2.7
		【5-20】	保護者との連携	4	36	保護者との連携体制を構築しているか	3.6
		【5-21】	卒業生・社会人	2	37	卒業生への支援体制を整備しているか	2.3
					38	産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	1.6
39	社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか				2.6		
現状				今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> 就職支援では、キャリアセンターの設置があり、業界との連携窓口となっている。 退学率や学生相談において、校内カウンセラーが週1回できており、学生の精神面をフォローしている。退学に繋がるケースは、入学時からのモチベーション低下などが上げられている。また、今後留学生がいない為、留学生の体制整備は行われていない。 学生生活面では、独自の奨学金は無く一般的な支援体制は整えている。健康管理面は、保健室はあるも、専門職の配置はない。学生寮の設置はなく、現状は不動産の紹介を行っている。学内サークルの活動実績はある。 保護者との連携は、保護者懇談会・個別面談などを行っている。 卒業教育面では、行っている学科も存在しているが、同窓会としての活動は未実施である。 				<ul style="list-style-type: none"> キャリアセンターが設置されているが、教務や学生との連携が十分ではない。 校内カウンセラーへのつなぎ方と、教員にもカウンセリングマインドを養う必要がある。留学生の定義とは何か。また、留学生を受け入れの学校としての考え方や指導体制などが無い。 独自の奨学金制度など、経済的支援体制を整理し周知する必要がある。学校保健計画が不明確。保健室の専門職配置等についての検討が必要である。寮の設置についても検討する必要がある。サークル活動の状況把握と支援体制の整備が必要。 保護者懇談会への出席率の調査とその後の対応を検討。また、緊急時の連絡体制の整備も必要 同窓会の設立と具体的な運営方法を明確にする。 			

大項目	大項目の評価	中項目	中項目の評価	小項目 (指標)	小項目の評価		
VI教育環境	3	【6-22】	施設・設備等	3	40	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3.6
		【6-23】	学外実習・インターンシップ等	3	41	学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	2.3
		【6-24】	防災・安全管理	3	42	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	1.6
					43	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	2.6
現状				今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> 施設設備などの保守管理・更新・改修などについては、計画が策定され、適切に実施されている。 定期的に不具合の有無の声掛けがされている インターンシップはしていない。体制は整っていない。 学外実習については各学科、明確な位置づけがあり、単位や成績評価も明確に行われている。また、実習中における事故等についても学校として保険をかけている。 出雲市の規程による年1回の消防避難訓練を実施している。避難訓練・消火訓練・防災講話を行い講話の内容は毎年変えて実施している。 				<ul style="list-style-type: none"> 防災全般（原発・水難・地震）には対応が不十分。 学校安全計画が分からない。 防災訓練実施。緊急連絡網についてはまだ確認要。 薬品チェックについて対象となる薬品はないが、教室ごとの火元責任者なし。 危険物の管理ができていない 台風、雪などの休講規定はあるが、学生が規定に沿って判断するのが現状で、学校から学生全員へ周知する方法がない。 授業中に発生した事故についての対応マニュアルがない。 安全管理マニュアルの周知は必要。 自由に学内に入校できる面があるので防犯の強化が必要。 			

大項目	大項目の評価	中項目		中項目の評価	小項目（指標）		小項目の評価
Ⅶ学生の募集と受入れ	3	【7-25】	学生募集活動	3	44	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	3.6
					45	学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3.0
		【7-26】	入学選考	3	46	入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3.1
					47	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	2.7
		【7-27】	学納金	3	48	経費内容に対応し、学納金を算定しているか	3.1
					49	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	3.7
現状					今後の課題と対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校訪問・ガイダンスに参加。理学療法士学科は独自の高校教員向けのセミナーを実施している。 ・多様な入試方法の実施はできている。 ・広報担当職員を中心に近隣の高校を頻繁に訪れている。 ・高校教諭に向けて、大学の取り組みなどを紹介する説明会を実施している。 ・募集活動は、入試制度の見直しを中心に適正化に務めている。 ・入学選考基準を設け、判定会議も行っている。 ・入学選考基準の把握は担当者ができていると思う。 ・入学者および入学辞退者に対して学納金の取り扱いについて適性に行っている 					<ul style="list-style-type: none"> ・募集活動は行っているが、学内での周知・チェック体制が不十分。 ・もっと情報発信が必要 ・募集活動は行っているが成果に結びついていない。 ・高等学校に対し情報提供、ガイダンス等行っているが、効果の検証が必要。 ・入学選考に関する実績を把握していても授業改善に活用が不十分であるが、徐々に改善を行っている。 ・入学者のデータの分析及び結果活用が不十分である。 ・価格水準については明示が必要。 		

大項目	大項目の評価	中項目		中項目の評価	小項目（指標）		小項目の評価
Ⅷ財務	2	【8-28】	財務基盤 ※法人・学校が連携して評価する。	2	50	学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2.0
					51	学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	2.0
		【8-29】	予算・収支計画	2	52	教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	2.0
					53	予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	2.0
		【8-30】	監査	2	54	私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	2.0
		【8-31】	財務情報の公開	2	55	私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	2.0
現状					今後の課題と対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集(収入)が安定していないため在校生数の減少、財務基盤は安定しているとは言えない。 ・年に3回の修正予算を行っているが、人件費率および旅費交通費における割合が高く、教育設備ならびに教育機器への投資が困難となっている。 ・学科および事務への経理における情報共有がはかされていないため、予算計画については整合性がとれていない。 ・内部および外部の監査は行なっているが、一部の教職職員しか実態は分かっていない。 ・情報公開は、法人としては公開している。 					<ul style="list-style-type: none"> ・最重要事項は収入のアップ。全教職員が広報活動(学生募集=収入)に積極的に参画するための、モチベーションを向上させる仕組みづくりと目標達成意識を高める組織にしなければならない。また、退学予防対策も必要であり、進級率を向上させ在校生数の維持も必要である。 ・今後、勤怠システムの導入により働き方改革が始まる。その中で業務の効率化と教職員一人ひとりの意識改革が必要となる。特に超過勤務や代休未消化により人件費増加を避けなければならない。今年度は極力経費節約に努める。特に印刷費、水光熱費、消耗品費などは、日常的な教職員一人ひとりの節約に対する心がけの意識が大切である。 ・学科、委員会、イベント等の予算配分を明確にし、その執行状況の確認と次年度向けの見直しを図る。 		

大項目	大項目の評価	中項目	中項目の評価	小項目 (指標)	小項目の評価	
IX法令等の遵守	3	【9-32】	関係法令、設置基準等の遵守	3	56 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	2.5
		【9-33】	個人情報保護	3	57 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	2.5
		【9-34】	学校評価	3	58 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3.5
					59 自己評価結果を公表しているか	4.0
					60 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	0.0
					61 学校関係者評価結果を公表しているか	0.0
【9-35】	教育情報の公開	4	62 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3.5		
現状			今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> 学校運営に対する法令遵守、ガバナンス(統治)に関する対策については、会議、委員会等のイノベーションにより実施されている。 学内規程の中に、ハラスメントに関する規程がない。ただし、就業規則には記されている。 個人情報保護における勉強会は、年1回全教職員を対象に行なっているが、日常的に教職員一人ひとりが意識をし実践できているかは半々である。また、学生指導においても同様である。 自己点検、自己評価は今年で2年目。重点項目の洗い出しができる。 学校関係者評価については、平成30年度に職業実践専門課程の申請を行なうため、現在準備中である。 情報公開は、学生便覧やホームページにて明記している。 			<ul style="list-style-type: none"> 管理運営会議またはリスクマネジメント委員会等で、啓発活動や見直しを図っていく。 次年度は、勤怠システムの導入により就業規則の変更をする。 個人情報保護については、平成30年度個人情報管理点検表を作成し、日常的な管理体制の強化を図る。 職業実践専門課程の申請に向けて、学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を各2回実施し公表の準備をする。また、申請書類作成と文書管理について整備を行なう。 教育情報は、学生便覧の修正とホームページ更新作業を図る。 			

大項目	大項目の評価	中項目	中項目の評価	小項目 (指標)	小項目の評価	
X社会貢献・地域貢献	3	【10-36】	社会貢献・地域貢献	2	63 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	2.7
					64 国際交流に取り組んでいるか	1.6
		【10-37】	ボランティア活動	3	65 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3.1
現状			今後の課題と対策			
<ul style="list-style-type: none"> 学生支援委員会が積極的に取り組んだ結果、地域との連携は、年々、良くなっているが、一部の学科は出来ていない。 社会貢献として地域セミナーを開催し、住民の方への啓発活動を行っている。 海外研修は実施しているが、留学生の受け入れ体制が不十分。 地域のイベントへの参加、消防への協力、交通安全運動などボランティアでの支援を行っている。 ボランティア活動を行っているがまだ意識が薄い学生も多い。 			<ul style="list-style-type: none"> 業界との関係の構築をさらに図る必要がある。 「学、官、校」との連携はできているが、「産」との連携ができていない。 企業や行政と連携した教育プログラムの開発ができていない。 産学連携については学科によってバラつきがある。連携に関する規定がない。 留学生に関する規定がない。 ボランティア活動の部分的な把握をしているが、その活動をもっと評価につなげられるといい。活動の窓口をつくり、活動の共有ができるといい。 			